

# 私の見たアメリカ、ノースカロライナ、ウィルミントン - 2つの学校の比較を通して -

元 東広島市立御園宇小学校 教諭 西谷 恵美子

## (1) はじめに

ただの旅行者として20年も前に行ったアメリカは、明るく陽気で誰にでも親切、それでいてちょっぴりスリリングなところだった。本を読み調べたアメリカが違ふ面を見せてくれたのは、観光ルートから一步はずれた時。きっとそれが本当の生のアメリカだったんだろうと思っている。

教師となり、国際理解教育をうたい、アメリカの歌を紹介しながら、いつも心のどこかに、本当のアメリカの学校はどうなんだろう？ 子どもたちは何をしているんだろう？ 教師はどうしているんだろう。本を読み、わかったつもりではいるが、百聞は一見にしかず。この目で観、この耳で聴いてこよう。そしてこの手で触ってこよう。そんな思いで、出かけたアメリカ。1週間ではあるがアメリカの学校と自分の勤めている学校とをくらべてみたら何かが見えるかな？

私の観てきたことを、日本の子どもたちに、教師に伝えられたら、より身近な国際理解教育の一端をにな

えるのではないか。私から始まる一筋の糸が始まりで教師、児童、地域へと広がっていくことを願って学校をくらべてみた。

## (2) 研究の概要

### ① 研究の目的と方法

アメリカと日本の学校を一日の流れに沿って記録し、それぞれの違いと共通性を見つける。それを記録し感想を書いていく。

### ② 比較した学校

Williamson Elementary School :

1020 Zion Hill Road Bolivia NC 28422

Tel : (910) 754-8661 Fax : (910) 754-8661

Prinicipal : Faye Nelson

東広島市立御園宇小学校 :

739-0024 東広島市西条町御園宇8544-6

Tel : (0824) 22-6220 Fax : (0824) 22-6220

校長：織田 壽子

### ③ 具体的な比較

	Williamson Elementary S.	御園宇小学校	感想
登校	・保護者が自家用車で送るか、スクールバスが各家庭を廻ってつれてくる。	・地域ごとに、まとまって歩いてくる。(集団登校)	校区単位と自由校区の違いがある。
身分証 服装	・首から写真入りのIDカードをつけている。 ・自由服。	・基準服を着て名札をつけている。	
始業前	・8時までバスの中で待っている。 ・教師は自分のメールボックスから伝達事項などを受け取り、自分の組に行き児童を待つ。	・学校についたら学級に入り宿題を提出したり、遊んだりしている。 ・職員朝会で全員そろって挨拶、伝達事項など話し合いをする。	アメリカでは、子どものいるところには必ず教師がいるということが基本になっているようだ。
朝食	・朝食を済ませていない児童のた		きめの細かい配慮がなさ

	めにビュッフェでサービスがなされており10人が食べていた。		れていると思った。日本でも必要になる日が近いのではないだろうか。
朝の会	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの教室にいる教師・児童に放送で伝達。</li> <li>音楽会に出る児童が音楽室で練習していた。</li> <li>国歌が流れ、みんなで歌う。その後胸に手を当てUSAに忠誠を誓う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会のため、児童は並んで待っている。</li> <li>児童による司会で、曜日によって教師の話、音楽、体育、児童会発表などを行っている。</li> </ul>	<p>全校集会をしたことがなく、私たちを迎える式が始めてだった。</p> <p>多くの民族が集う国らしい朝の過ごし方だと思った。</p>
構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼、1、2、3年は26名制限で教室には担当教師とアシスタントの2人がいる。アシスタントは教師の資格が無くても勉強中であれば良い。ただ大型バスの運転免許の資格が必要。</li> <li>児童は、基本的に自分のクラスがあって荷物をおいている。教科によって教室を移動している。</li> <li>リーディングやライティング等で目標に到達していない児童は、授業中であっても、特別クラスに行き学習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>40人制限で各教室に1人の学級担任。</li> <li>クラスの構成は移動無し。いつもクラス単位で行動。原則として各担任が全教科を教えている。</li> <li>自分の組で一日のほとんどを過ごす。</li> </ul>	<p>手のかかる低学年の間、教室に2人の大人がいることは良い。日本の1年から6年までが40人制限というのは一律すぎる。もっと流動的に考えられると良いのではないか。</p>
授業時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>1単位45分</li> <li>給食時間が一致でないため、授業をしている組もあり給食のためランチルームにいる組もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1単位45分</li> <li>学校中が同一時間帯で動いている。</li> </ul>	<p>同じ時間帯で動くことになれている私には、少しとまどいがあった。</p>
休憩時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の間、移動時間があるだけ。</li> <li>移動には必ず教師がつき、廊下に引かれた線の上を1列で静かに歩く。トイレの前では、トイレに行っている児童を、みんなで待っている光景をよく目にした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>午前中1ブロックと2ブロックの間に25分の休憩があり、児童は自由に運動場や図書室、教室で遊ぶ。また給食後25分の休憩もある。それぞれ自由にトイレに行ったり、運動場に出て遊んだりしている。</li> </ul>	<p>アメリカは管理されているというイメージを持った。しかし休憩時間になるとにぎやかに運動場に出ていく本校の児童も見なうべき所がある。</p>
教室環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示物がカラフルに貼られている。(市販のものが多) アル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の手による掲示物がほとんど、学習の足跡が残るような掲</li> </ul>	<p>毎年同じ学年を担当するので、自分の教室が決</p>

	<p>ファベットなど基本的なものが多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に目を引いたのが、きまりが細かく書いてあるクラスルーム。どの組にも貼ってあり、良い行いをした児童の名前が表に貼り出されている。</li> <li>・掲示に必要な費用は学期ごとにカウンティから出るが、不足して教師負担になるそう。</li> </ul>	<p>示物。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の作品や朝のマラソン表、生活目標など変化していく掲示物がある。</li> <li>・学級経営にかかった費用は学級費として児童が分担している。市からの補助もある。</li> </ul>	<p>まっているので掲示に力が入るようだ。</p> <p>ティーチャーズエイドと言う、学校で使うものだけ売っている店がある。ほとんどのものはそこでそろ。</p>
教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として専科制。児童が移動して授業を受ける。時折児童が抜けたり増えたりするのは、テストで点の不足しているものがスペルクラス、リーダーと別に授業を受けている。いつも同じメンバーでない。</li> <li>・教科は総合的に行われている。特に英語と言うものは無く、スペル・リーディングと言った時間がある。</li> <li>・特にフォニックスの指導が丁寧になされていた。英語はあらゆる教科で指導がなされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として担任が全教科受け持っている。必ずクラス全員が同じ授業を受けている。</li> <li>・5・6年生の家庭科、3・4・5・6年生の音楽は専科が担当している。</li> <li>・総合単位では、チームティーチングの形で指導し、個別の課題を追求することもある。</li> <li>・国語が単独であり、読み書きを同時に修得していく。</li> </ul>	<p>文字の仕組みの違いから教え方が大きく異なる。まず言える、読める、そして書くと言う順番になっている。高学年ではスペルの授業にゲームを取り入れ、熱心に指導されている。</p>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場に芝生が生えそろうていないので、体育館でのみ、実施していた。</li> <li>・幼～5年まで1人の先生が体育の時間を担当している。各学年週1回。</li> <li>・着てきた服装のまま、体育をする。</li> <li>・各月にベストクラスが選ばれ、賞状がもらえる。名誉ある賞状であり、教室の入り口に貼ってあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動場（芝生無し）や体育館で実施している。全クラス担任が受け持っている。</li> <li>週3回実施している。</li> <li>・体操服を着用、赤白帽子をかぶっている。</li> </ul>	<p>何に対してもベストを選ぶことが好きなようであり、それが励みになっている。</p>
総合学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生の学級では、社長をトップとして会社を作り、経営していく授業をしていた。親の了解を得て実際に持ち寄った物を売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校では3年生から6年生までが国際理解教育を中心とした総合学習に取り組んでいる。各学年がテーマを決め、実施してい</li> </ul>	<p>日本のごっこ遊びを越えた、実際の社会の縮図としての学習がなされていた。臨場感があり、これ</p>



	<p>買しながら学習を進めていた。問題が起きたら黒板に書き出し、みんなで話し合っ解決していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生では「レインフォレスト」と題して、熱帯雨林の学習をしていた。4つの課題の部屋を順番に学習していく。地球環境を考えた学習であった。</li> </ul>	<p>る。児童は自ら決めた課題を、いろいろな方法で解決していく。</p>	<p>からの生活で役立つ体験学習であった。</p>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を使って作業している。児童が使う道具は全て学校のものであり、児童の私物ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物を使って作業している。1年入学時に各個人で算数セットを購入し、教室のロッカーに置いて使用している。</li> </ul>	<p>アメリカでは学校で使うもののほとんどが学校所有である。児童の負担が少なくて良いし、使い回しができ無駄が少ない。</p>
コンピューター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Kクラスから学習している。2年生が理科の時間に動物の足の数、くちばしの形、羽のかずなどのデータベースを作っていた。</li> <li>・コンピュータールームがあり、各台がインターネットと接続してある。コンピューターの専科教師が指導している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に4台あるが授業ではほとんど使用してしない。</li> <li>・今後、台数を増やし、インターネットで各教育機関を結ぶ予定がある。</li> </ul>	<p>きちんと専用の部屋と指導する人・管理する人が配置されており、情報教育が大切にされているのがわかった。「ハイテク日本はもっとすごいだろ」と質問されて困った。</p>
給食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各組ごとにランチルームで食べる。</li> <li>・パンやハンバーグが並んだ棚から発泡スチロールの皿に自分の好きなだけとって（アメリカでは、自分で取るという新しい試みだと聞いた）レジで計算してもらう。</li> <li>・スパゲッティは人気メニューで、途中で麺が品切れになり、追加していた。</li> <li>・IDカードを提示することで、食べた分だけが記録される。</li> <li>・保護者の所得によっては、給食費の免除または、割引がある。</li> <li>・弁当を持ってきて食べても良</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校中一斉に、各教室で食べる。</li> <li>・各教室に配膳ワゴンを持っていき当番児童による配膳。アルミの食器に入れて全員が同じものを食べている。食器は、ワゴンにかえし給食室へ返す。そこで洗われる。</li> <li>・季節料理や外国の料理、地方の郷土料理などバラエティ豊かなメニューが工夫されている。曜日によってご飯、パン、麺と主食が変わる。</li> <li>・給食費は一食220円と一律である。保護世帯には市から補助が出ている。</li> <li>・アレルギーや宗教上規制がある</li> </ul>	<p>4日間でハンバーグ・ホットドッグ・スパゲッティを食べた。炭水化物が多い。またクッキー、アイスクリーム、砂糖のたっぷり入ったお茶など甘いものが多いのが気になった。栄養的には日本の方が考えてある。</p> <p>発泡スチロールの容器に食事をとり、プラスチックのスプーンやフォークで食べ、すんだら残ったものと一緒にゴミ箱行き。焼却処分か？資源の無駄遣いと、大気汚染が</p>

	<p>い。ポテトチップスとコーラ、またピザとスプライト等の取り合わせが多く見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生日の人には大きなケーキがプレゼントされる。後から教室でみんなで食べる。</li> <li>・ランチルームが、全員がそろって食べるほど広くないので、時間的に遅くなる組は途中でおやつを持ってきて食べてもいいことになっている。授業の合間にクッキーやチップスを食べていた。</li> </ul>	<p>児童は除去食や弁当を持ってきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年から誕生日の人が集まって、ランチルームで会食をする日を設定している。誕生日の人だけエクレアがプレゼントされる。</li> </ul>	<p>気になった。</p> <p>誕生日の子がいて大きなケーキをもらって嬉しそうなお顔が印象的だった。</p>
掃 除	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ランチルームで食事終了後、自分の使ったテーブルをきれいにする。その他の掃除は、掃除担当職員がしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午後20分間の掃除時間がもうけられ、1年から6年までが分担して掃除をしている。その範囲は各教室、廊下階段、トイレ、運動場、体育館まで、学校全部である。</li> </ul>	<p>自分の使っているところを掃除することで、感謝の気持ち、ものを大切にすることが育てられる。</p>
下 校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3時下校と決まっていますが、Kクラスから5年生まで、全員が一斉に下校。</li> <li>バス、保護者の迎えの車、それぞれに乗って帰る。</li> <li>・障害者用バスがあり、リフトで車椅子毎昇降できる。</li> <li>・迎えに来られない児童のために3時から6時まで居残りの組があり、教師が世話をしている。ランチルームに集まって点呼されていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じてそれぞれ下校。低学年は地域ごとにまとまって帰っていく。</li> <li>・木曜日と土曜日は一斉下校。全員が集まって地域ごとに班長を先頭に帰る。</li> <li>・保護者の願いから学童保育を学校内で実施しているところもある。市から派遣された担当者が、下校時から5時まで世話をする。夏休み中は午前中から実施される。</li> </ul>	<p>Kから5年まで同じ時間帯である。内容それぞれ発達段階に応じて工夫してあるものの幼児と5年生が同じ時間帯で活動していることに驚いた。アメリカでは放課後というものがなかった。</p>
教師の退勤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が帰ったら、それぞれ帰る。15時30分頃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務時間が16時55分までのので、児童下校後それぞれ学級事務をする。</li> <li>曜日によって全員で研修したり児童を残し補習したりする。</li> </ul>	<p>1日中児童から目を離すことのないアメリカでは勤務時間が短くて当然のように思われた。</p>

#### ④ その他の比較

Class Rules, Time OutそしてBehavior

組の約束がきちんと決められており、それに違反すると教室内でのTime Out、教室外へのTime Out、学

校からのTime Outとかなり厳しい。勿論Kクラスから適応される。ルールはきちんと守るべきもの、そして責任をとるものとして、小さいときから厳しく教えられている。今、自分が組の中でどのくらいいい子であるかが一目でわかるよう組の中で表にして掲示してある。

日本では「子どもだから大目に見ましよう。」と言う風潮があるように思われる。単一民族で温かく育てられた子どもたちと、違う文化を背負った子どもたちが一緒に暮らす国との違いであろう。

#### 授業中のしつけの指導の観点

授業中ガムをかむ、肘をついている、これは特別悪いことではない。学力をつけるのが目的であり、考えたり活動していれば、その他のことは許される。ガムをかむのは精神的安定のために必要なら良いようである。先生たちも、時々ガムをかんでいた。アメリカらしい考え方割り切った考え方の一端を観たような気がする。日本では教室への出入り、礼の仕方、正しい姿勢、鉛筆の持ち方が……などと指導するが、アメリカでは、それらは家庭でのしつけの範囲と見なされている。しつけの範囲が家庭と学校とでしっかり分けて考えられている。

アメリカでは、家庭でのしつけに対して親が責任を持つ。何かあれば地域社会がサポートしてくれる環境がある。

#### ハグする

絵本を読んだ後、子どもたちは寄ってきて手を広げる。肩を抱き合ってハグするのだ。教師は「よくやったね。」と言う意味で、すぐ子どもをハグする。ハグすることで教師との関係を深めたり精神を安定させたりしているようである。日本でハグすると特に男性教師の場合セクシャルハラスメントと取られかねない。かわいいKクラスの子どもはもちろん、5年生の素敵な男の子たちともハグできた私は幸せであった。ハグすることでより身近に感じられたのは確かである。

#### 障害児教育

障害児は、それぞれ自分の学年に入っており、子ども一人に介助する人が一人ついている。車椅子を押したり、授業の手助けをしたりする。難聴児には手話のできる介助の人がついている。全校でのお迎え会の時

も、その子の前でずっと手話通訳をしていた。また指導する先生は特別なマイクをつけ、声をかんじられるようになっている。絵本を読んだり、ピカチューの折り紙指導をしたりした時、私もそのマイクを首から下げた。どの子どもみんなと一緒に楽しそうに活動をしていた。

本校に障害児はいないが、近くの養護学校との交流をしている。一緒に生活することで相手の立場に立てる機会が増え、より深く理解できると思う。

#### 指導の分業化とチームワーク

学校の中で教師の役割が細分化されている。ソーシャルワーカー、アシスタント、カウンセラーなど様々な形で子どもたちが支援されていた。家庭訪問は担任ではなくソーシャルワーカーがしている。さまざまな人が横の連絡取りながら、チームワークの中で指導がなされていた。日本でも、専門性が重視され役割分担の傾向が見られるようになったが、まだまだ1人の教師が多くを担い、負担が大きいように思う。

本校では一斉に4月に家庭訪問がある。各学級担任が行っているが、日本語学級通級者には日本語学級担当者も同行している。また、配慮を要する児童については全教職員が共通理解を図るための時間をもち、全教職員で指導に当たっている。また地域の民生委員が学校と連携を取りながら、保護者の指導に当たることもある。

#### 校長のリーダーシップ

日本にくらべ、校長の権限が強い。校長・教頭が常に学校中を歩き、自ら生徒指導をしていた。また、月1回メールボックスのある部屋に投票箱がおかれ、今月のベストティーチャーが教師自身の手によって選ばれ表彰される。選ばれた人のために「夫の会社からもらったの、費用がないので。」と小さなプレゼントを教頭が用意していた。年間で学校のベストティーチャーが選ばれ、カウンティ単位や州単位でも選ばれ、名誉あることのような。教師同士が評価することが興味深かった。「どうしてか」と訊くと、反対に「日本には良くない教師はいないのか?」「良くない教師はどうしているのか?」と反対に質問された。返答に困ったしまったが、教師の適性については、今後考えていく必要がある。校長権限で教師を解雇できるそう。3年



以内なら無条件で、10年をすぎると書類がたくさん必要とか。解雇されてはと思い1人1人が、がんばるのではなからうか。

#### 担任の希望

「私は11年間3年生を持っている。」と誇らしそうに言った。え〜とびっくり。日本では考えられないことだった。「私は10年を一区切りに1年から6年を全部持ちたいと考えている。」と言ったら、え〜とびっくりされた。いつも変わっていたら、わからないことが多くて大変だろう、それより同じ学年を続けるとより深く理解できるだろう、その学年のプロになる、と言う考え方だ。担任はもちろん、校長も同じ考えだった。「前は違う学年だったよ。」と言う人もいたが、何年もしてから変わっている。基本的に持ち上がりは無く、教室移動もない。何年も同じ部屋で同じ学年を教えている。教室自体が教師の部屋という認識も日本とは違っている。4月の教室移動の煩雑さを考えれば同じ部屋は楽だろうと思わないではないが。

私は幸いにも最初の10年で1年から6年まで持つことが出来た。そこで見えたのはカリキュラムの縦のつながりと子どもたちの成長過程だった。私にとっては貴重な10年だった。それぞれ良さがああり、個人の考え方もあるのでどうとは言えない。それぞれの良さを生かす方法を見つけだせばいいと思う。

#### 教師の年収

アメリカの収入は州で統一されており、経験年数に応じて上がっていく。また学歴に応じて2段階の差がある。それぞれの段階で研究レポートを提出すれば収入がアップしそのまま維持される。実質4段階あることになる。収入は10ヶ月分しかでない。夏休みが完全休業なので、2ヶ月給料はでないのである。その受け取り方は自由で、12ヶ月に分けて受け取ることも出来る。教師は別の職業から収入を得ることが出来るので、夏休みに学校外で働いているとのこと。子ども相手にサマーキャンプを開いている人もいた。

日本でも学歴に応じて2段階あり、経験年数で増えていくが、レポートを提出してもアップすることはない。他の職業に就くことは出来ないが、12ヶ月分給料は保証されている。

「私は今大学に通っているのよ。」教師をしながら大

学に通い、単位を取得するなど、自分を磨いてレベルアップしている人が多いのにびっくり。見習うべき点が多かった。

また、校長になるためには、大学に戻って勉強し単位を取る必要があるそうだ。

#### 施設

広いゴルフ場に隣接しているウィリアムソン小学校の1階建ての玄関を入ると、広いエントランスホールの左に事務室、校長室、副校長室と並び左にボランティアルーム、中央に図書館。その図書館を中心に廊下が走り学級が並んでいる。体育館も同じ建物内にある。体育館とランチルームが隣り合わせにあり、間のしきりを取ると広いホールになるように造ってある。学校のまわりは広く遊具や砂場はあったが、運動場と見られる場所はなく、芝生で覆われている。職員室は無かったが、教師用のレストルームがあり自動販売機、電子レンジなどが置いてある。放課後、いい匂いがするので行ってみたら、掃除担当の人が自動販売機で4ドル売っているポップコーンをレンジにかけていた。「おいしいのよ。」ってごちそうしてくれた。実際本当においしくて、後でスーパーで探したが同じものは見つからなかった。

御園宇小学校の建物は3階建てで、各階の北側に廊下が走り南に教室が並んでいる図書室、理科室、家庭科室、音楽室など特別教室は学校の東側に並んでいる。日本のほとんどの小学校と同じように、体育館は別棟になっている。また校舎に面して広い運動場があり鉄棒や遊具が並んでいる。教師は自分たちが会費を出しあってコーヒーやおやつを用意して休憩時間に飲んでいる。

アメリカでは最新の機械・器具が用意され、掲示物など造りやすくなっている。一番感動したのが、形をまとめて切る機械。アルファベットやいろいろな形が一度に切り抜くことが出来る。またラミネートする大きな機会があり全てのものがラミネートされ掲示されていた。教師が、働きやすい環境が整えられている。いろいろな面で日本は遅れていると思わざるを得なかった。10年前のコンピュータ、旧式の数々の機器等を駆使してはいるものの、21世紀を担う子どもを育てる場として、最先端のものを備えてほしいと願う。

### 地域の中の学校

学校の中に地域の人に開かれた部屋があり、ボランティアの人が自由に出入りできる。ボランティアの人たちが集まって月1回、保護者宛に新聞を出している。内容は「どんな風に本を読ませればいいのか」「宿題のさせ方」「家庭での先生は親ですよ」……など。とても興味深い内容のものが多かった。またそれだけでなく、学校教育のあらゆる面で協力を惜しまないようだ。算数などでつまづいている児童に対して指導に来たりもするということがあった。年に何回か「お父さんと一緒に朝食を食べる会」、なども開かれている。また教会とも連携をとって行なわれる行事もあるようだ。

本校では学校と地域の社会福祉協議会とでつくっている《わくわく会》という組織がある。田植え、稲刈り、どんど、昔の遊びなどの指導・手助けにあたってもらっている。また本年度から「みそのうふれあいタイム」と称して土曜日に子どもたちに茶道、折り紙、英会話、囲碁将棋、太極拳、ゲートボール、卓球などを教えてもらいながら一緒に楽しむ時間を設定している。

### (3) 研究の考察と結果

「日本ではどうやって子どもたちを静かにさせているの?」これが、アメリカの子どもたちから質問された最初の言葉である。ランチルームで子どもたちと直接話ができるとき、「Hi!」のあと、子どもたちから質問を投げかけられた。一瞬「えっ?」とまどいながら歩いているとまた別の子から同じような質問。教師からも同じような質問を受けた。どうやら教師の手腕の一つに『いかに子どもたちを静かにさせられるか』があるようだ。その背景にみんな日本の学校は静かであると言った先入観があり、その方法を教えてくれと言うものらしかった。

私の第一印象は、「シー!」と口に人差し指をあてて、廊下にかかれたピンクのラインの上を一列になって歩くアメリカの子どものたちに、「ウー、ここはアメリカなのか!!!」であった。彼らは廊下は走らない、大声を出さない。これは私のいた間中、守られていた。

休憩時間のチャイムと共に「今日は何して遊ぶ?」と大声でボールをもって飛び出す本校の子どもたちを毎日観てきた私には、信じられない光景だった。日本にいて描いていたアメリカ、こうだろうと思っていたことを一瞬にして裏切られたのである。

地域に開かれた学校と盛んに言われている昨今だが、“Open to the community”アメリカではそれがなされていたことも発見した。

学校という場に、21世紀を担うであろう子どもたちを育てるという夢を持った教師がいる。そこに限りない夢と未来を持った子どもたちがいる。そしてそれをささえる地域がある。遠く離れた2つの学校に共通していることである。

それぞれの国の文化や歴史を背景に異なった方法もあるが、人を育てるという目標は同じである。これから交流していく中でより深く理解し、認め合い、互いを学び合うことを大切にしていきたい。

### (4) 今後の展望

私の観たアメリカを伝え、教師間の交流、児童間の交流をしていく中で、なぜだろう? どうしたらそうできるのだろうか? どう違うのだろうか? などたくさんの疑問を持たせたい。その疑問を考えていくことを通して、お互いを理解できたらすばらしいのではないだろうか。もっと身近にアメリカを感じてくれるのではないだろうか。それが広がってもっと世界を知りたい、そんな思いをもって欲しい。違うんだ、じゃどう違うそれはどうして子どもたちの手で一つ一つ解決しながら、同じ地球に立っていることを理解してくれることを信じたい。

### (5) おわりに

アメリカで私が観たこと・聴いたこと・感じたことは、このプロジェクトだからこそ味わえたことだと思う。

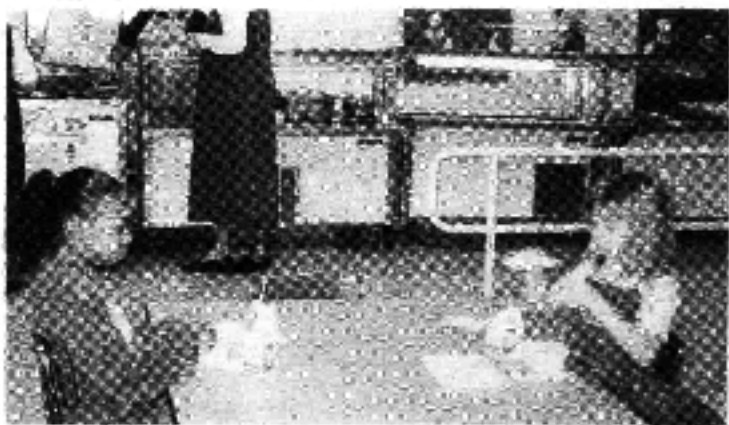
「日本から来た」と紹介されたにもかかわらず、「中国から来たの。」と質問された。「日本よ。」と答えると「日本は中国のどこにあるの。」ときかれた。アジアとアメリカというひとくくりでなく、ノースカロライナと広島、バージニア・ウィリアムソン小学校と御園宇小学校、一人一人の顔の見える国際理解教育へとつなげたい。

今、アメリカと日本に白い線がつながった。これからの交流を通して、日本から、アメリカからいろいろな色を増やしていくことが出来るのではないか。ウィリアムソン小学校で歓迎の時、子どもたちが「虹の歌」を歌ってくれた。いつかカラフルな虹が、大きな虹が、アメリカと日本の空にかかることを楽しみにしている。



(6) 写真資料

朝食



I Dカード



ランチルームのレジで



ハグする



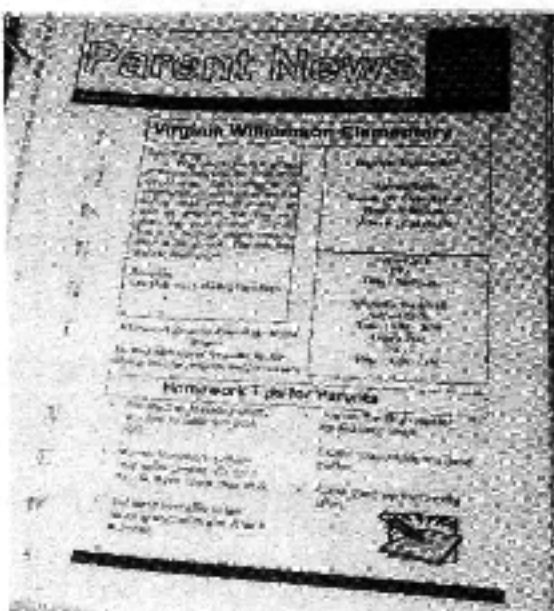
子どもたちとカラフルな掲示の前で



お誕生日のケーキ



ボランティア通信



スクールバスでさようなら

